

## 看護の基礎実習 1単位（45時間）

### 【目的】

受け持ち患者との関わりを通して、フローレンス・ナイチンゲール「看護とは何か」を理解する

目 標	実習内容
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を生活者として理解することができる</li> <li>2. 安全・安楽を意識して、患者に必要な日常生活援助を考え実施できる</li> <li>3. 患者とのよい関係性を築くためのコミュニケーションをとることができる</li> <li>4. 患者との関わりを通して、看護とは何かを考えることができる</li> <li>5. 他の看護場面を共有することで看護を深めることができる</li> <li>6. 看護師としての基本姿勢を身につけることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の生命力を消耗させている理由がわかり、ビジョン・ゴールを明確にする</li> <li>2) ビジョン・ゴールを達成するための目標を設定し、主体的に学習する</li> <li>3) 患者の24時間の生活の在り方を知る</li> <li>4) 患者とのコミュニケーションを図る</li> <li>5) 様々な看護場面に参加し、患者に合わせた日常生活援助を実施する</li> <li>6) 体験から、どのような行為が看護となったのかを振り返る</li> </ol> <p style="text-align: right;">（研修時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) 健康に留意し、患者を尊重する態度やメンバー間の連携を知る</li> </ol>

## 看護の展開 I 実習 2 単位 (90時間)

### 【目的】

受け持ち患者の看護を通して、看護過程展開の必要性および看護者の役割を理解する

目 標	実習内容
1. 受け持ち患者の全体像を描く	1) 問題意識に沿って受け持ち患者の情報を収集する  2) 身体面・精神面・社会面の情報をもとに、生活者としての患者（対象特性）を把握する  3) 患者の回復過程をうまく進めるために必要な条件を明らかにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やってはいけないこと</li> <li>・ 避けるべきこと</li> <li>・ 積極的に勧めること</li> </ul>
2. 受け持ち患者が持つ看護上の問題と必要な看護がわかる	1) 事実をもとにアセスメントし、看護上の問題を明らかにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命力（細胞—個体レベル）の状態</li> <li>・ 内部環境</li> <li>・ 心の安定</li> <li>・ 信頼関係</li> <li>・ 社会関係</li> </ul> 2) 患者に必要な看護を理解し、看護の方向性に基づいて計画する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原理・原則・根拠を踏まえる</li> <li>・ 患者のもてる力を活用する（個性）</li> <li>・ 優先度を考える</li> </ul> ＊ 上記を含む具体的な計画を立てる
3. 立案した看護計画に沿って看護を実施する	1) 安全・安楽に配慮し、患者の反応を見ながら援助を実施する  2) 実施した援助を振り返り、計画を修正する
4. 自己の看護を看護過程に沿って振り返り、看護者の役割を考えることができる  (学内振り返り発表)	1) 振り返り分析した内容を発表し、助言を得る 2) 他学生の発表内容から、新しい知識を得る 3) 発表で得た知識を含め、学びを整理する

## 看護の展開Ⅱ実習 2単位 (90時間)

### 【目的】

受け持ち患者の個別性に応じた看護を実施しながら、患者中心の看護とは何かを理解する

目 標	実習内容
1. 受け持ち患者を全人的に捉え、看護の方向性を描くことができる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題意識に沿って、受け持ち患者の情報を収集する</li> <li>2) 身体面・精神面・社会面の情報をもとに、生活者としての患者(対象特性)を把握する</li> <li>3) 患者の回復過程をうまく進めるために必要な条件を明らかにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やってはいけないこと</li> <li>・ 避けるべきこと</li> <li>・ 積極的に勧めること</li> </ul> </li> <li>4) 事実をもとにアセスメントし、で看護上の問題を明らかにする <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命力（細胞一個体レベル）の状態</li> <li>・ 内部環境</li> <li>・ 心の安定</li> <li>・ 信頼関係</li> <li>・ 社会関係</li> </ul> </li> </ol>
2. 患者の個別性に応じた看護計画を立案できる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者に必要な看護を理解し、看護の方向性に基づいて計画する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原理・原則・根拠を踏まえる</li> <li>・ 患者のもてる力を活用する（個別性）</li> <li>・ 優先度を考える</li> </ul> <p>＊ 上記を含む具体的な計画を立てる</p> </li> <li>2) 追加・修正を加え、個別性のある計画に発展させる</li> </ol>
3. 計画した看護を意図的に実施する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の状態や生活状況から、援助方法を決定する</li> <li>2) 目的を明らかにし、関心をもって援助を実施する</li> <li>3) 援助を実施しながら、患者の反応を受け止める</li> </ol>
4. 自己の看護を振り返り、次の看護に活かす	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己の関わりを丁寧に描写し、客観的に観る</li> <li>2) 「関心」に沿って振り返り、看護的思考を鍛える</li> <li>3) 振り返りを通じて対象理解を深め、より個別性のあるかかわりにつなげる</li> </ol>
5. 実習全体を振り返り、自己の看護的思考を高める (学内振り返り発表)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己の看護場面を、「意図的な看護」「個別性のある看護」「患者中心の看護」の視点で振り返り、助言を得る</li> <li>2) 他学生の発表内容から、新しい知識を得る</li> </ol>

## 在宅看護論実習 2単位(90時間)

### 【目的】

健康障害を持ちながら地域で生活している人々とその家族の多様なニーズを理解し、その人が望む生活を送れるよう援助するための基礎的な能力を習得する

目 標		実 習 内 容
江南厚生訪問看護ステーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害を持ちながら在宅で生活している対象を訪問し看護の意味を考えることができる</li> <li>社会資源の必要性和活用について述べるができる</li> <li>他職種との連携の必要性や方法について説明できる</li> <li>在宅の場で必要な態度と行動がとれる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅で療養している対象者を訪問し、生活者として捉え看護の必要性を考える</li> <li>対象者の対象特性を描く</li> <li>訪問看護計画書に基づいて対象者と家族への援助の実際を見学・実施する</li> <li>訪問看護計画書に基づいて対象者と家族への援助の実際の根拠を考察する</li> <li>訪問看護に必要な対応とマナーを実践する</li> </ol>
訪問看護ステーション 患者相談支援センター まあとと	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域で生活している人々を支える地域包括ケアシステムの概要を述べるができる</li> <li>地域での活動を通して、保健・医療・福祉に携わる人々の相互の連携と看護の役割と責任について述べる事ができる</li> <li>社会資源の活用と関係機関との連携・協働について述べる事ができる</li> <li>訪問看護に至る過程、問題解決の考え方と支援方法を述べる事ができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>患者相談支援センターの役割を学ぶ (退院支援・在宅医療支援・医療福祉相談など)</li> <li>介護予防・相談事業などの実際を通して、地域で生活する高齢者や支援を必要とする人々の状況を考える</li> <li>訪問活動に同行し看護援助を見学・一部実施する <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問前の準備 (確認事項・必要物品・感染予防)</li> <li>情報収集</li> <li>基本的技術を応用、創意工夫し、個々に合わせた生活援助技術の見学・実施する</li> <li>訪問後の処理(物品の後始末・記録・調整)</li> </ul> </li> <li>対象者の対象特性を把握する</li> <li>訪問看護に必要な対応とマナーを実践する</li> </ol>
知多厚生病院 南部知多篠島診療看護ステーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の特性を説明できる</li> <li>地域の特性をふまえ、療養者とその家族の生活がどのように支えられているかを述べる事ができる</li> <li>社会資源の活用と関係機関との連携・協働について述べる事ができる</li> <li>島の地域における健康管理、緊急時の連携や対応方法を述べる事ができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象者の対象特性を把握する</li> <li>訪問活動に同行し看護援助を見学・一部実施する <ul style="list-style-type: none"> <li>訪問前の準備(確認事項・必要物品・感染予防)</li> <li>情報収集</li> <li>生活援助技術の見学を通し、在宅で行われている看護技術の応用</li> <li>訪問後の処理(物品の後始末・記録・調整)</li> </ul> </li> <li>訪問看護に必要な対応とマナーを実践する</li> <li>篠島診療所の役割を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>診療場面に立ち会い、住民の健康管理を学ぶ</li> <li>地域の人々と診療所のつながりを学ぶ</li> <li>緊急時の連携や対応を学ぶ</li> </ul> </li> <li>島内の地区踏査により地域の特徴を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>環境、生活に必要な資源や住民同士のつながり等</li> </ul> </li> </ol>

## 周手術期看護実習 2単位（90時間）

### 【目的】

周手術期にある対象とその家族の特徴をとらえ、生体侵襲から回復過程を支えるための看護を実施する。

目 標		実 習 内 容
病 棟 実 習	1. 受け持ち患者の看護過程が展開できる。	1) 看護に必要な情報を精選し、対象特性を描く 2) 対象の回復過程を支える必要条件を明らかにする。 3) 対象の変化や反応から解決を要する対立がどこに生じているかを考える。 4) 看護上の問題を明確にし、対象を尊重した目標を設定する。 5) 具体的かつ個別性のある看護計画を立てる。 6) 対象の反応をみながら計画を実施し、評価する。 7) 評価に基づいて計画を修正する。
	2. 周手術期にある対象への看護を実施することができる。	1) 術前の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 術後合併症予防のための援助（術前処置、術前訓練）</li> <li>(2) 手術療法の理解を促す援助（術前オリエンテーション）</li> <li>(3) 対象やその家族の思いに寄り添った援助</li> </ul> 2) 術後の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 術後の病床環境を調整する援助</li> <li>(2) 生体侵襲から回復過程を支える援助</li> <li>(3) 術後合併症予防のための援助</li> <li>(4) 手術に伴う身体的・精神的苦痛を緩和する援助</li> <li>(5) ボディイメージの変容への援助</li> <li>(6) 退院後の生活の再構築に向けた援助</li> <li>(7) 日常生活の規制への援助</li> </ul>
	3. 退院を目指した段階にいる対象を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、看護を実施することができる。	1) 障害受容過程に沿って、対象の精神面・社会面の影響を考慮した援助 2) 日常生活動作を評価し、ADLの拡大に向けた援助 3) セルフケア能力やセルフマネジメント能力を高める援助（日常生活の改善に向けた生活指導） 4) 社会資源の種類と活用方法についての理解と援助
	4. 対象との関わりから倫理的問題にも目を向け、課題解決に向けて検討し、援助に活かすことができる。	1) 倫理カンファレンスの参加（グループディスカッション）
	5. 医療チームの一員としての役割を理解し、行動することができる。	

目 標		実 習 内 容
手術室見学実習	1. 手術看護の概要がわかる。	1) 手術室の特徴（手術室の構造の特徴） 2) 手術を受ける対象の特徴
	2. 麻酔および手術が生体に与える影響がわかる。	1) 麻酔と生体侵襲 （麻酔の種類と特徴、薬剤の作用、麻酔の目的と生命維持への影響） 2) 手術と生体侵襲（手術の目的と術式、物理的影響と体温低下）
	3. 手術室における看護師の役割がわかる。	1) 手術室の環境、手術器械、手術台周囲の準備 2) 感染予防対策 3) 安全管理 4) 術前訪問 5) 入室時の看護（病棟からの申し送り） 6) 麻酔導入時の看護 7) 術中の看護 （術中体位による合併症予防、直接介助者・間接介助者の役割、術中の観察） 8) 手術終了時の看護（麻酔覚醒時の観察、病棟への申し送り） 9) 多職種との連携
I C U 見学実習	1. ICU看護の概要がわかる。	1) ICUの特徴（ICUの構造・設備の特徴） 2) 生命の危機状態にあるクリティカルケアを必要とする対象・家族の特徴
	2. 生命力が重度に脅かされている対象の回復過程がわかる。	1) 疾病（手術）が対象の身体に与える影響 （呼吸・循環・代謝機能の変化と観察）
	3. I C Uにおける看護師の役割がわかる。	1) 全身状態（意識・呼吸・循環状態、体温）の観察とアセスメント 2) 生命力拡大への援助（廃用症候群の予防、深部静脈血栓症の予防） 3) 感染予防対策 4) 精神的援助（不安の緩和、疼痛緩和、せん妄予防） 5) 安全・安楽への援助（転落防止、身体拘束、皮膚トラブル対策） 6) クリティカルケア看護における多職種連携 7) クリティカルケア看護における倫理的課題 8) クリティカルケアを必要とする家族への看護

## 急性期看護実習 2単位（90時間）

### 【目的】

急激な身体侵襲により生命活動が脅かされた急性期にある対象とその家族の特徴をとらえ、回復過程を支える看護を実施する。

目 標		実 習 内 容
病棟実習	1. 受け持ち患者の看護過程が展開できる。	1) 看護に必要な情報を精選し、対象特性を描く。 2) 対象の回復過程を支える必要条件を明らかにする。 3) 対象の変化や反応から解決を要する対立がどこに生じているかを考える。 4) 看護上の問題を明確にし、対象を尊重した目標を設定する。 5) 具体的かつ個別性のある看護計画を立てる。 6) 対象の反応をみながら計画を実施し、評価する。 7) 評価に基づいて計画を修正する。
	2. 急性期の健康段階に応じた看護を実施することができる。	＊ 慢性疾患の急性増悪した対象、身体侵襲の大きな検査・治療を受ける対象、呼吸・循環状態の変化しやすい対象 1) 検査・治療に伴う身体的・精神的苦痛を緩和する援助 2) 合併症を予防する援助 3) 回復を促進する援助 4) 日常生活の規制への援助
	3. 退院を目指した段階にいる対象を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、看護を実施することができる。	1) 障害受容過程に沿って、対象の精神面・社会面の影響を考慮した援助 2) 日常生活動作を評価し、ADLの拡大に向けた援助 3) セルフケア能力やセルフマネジメント能力を高める援助（日常生活の改善に向けた生活指導） 4) 社会資源の種類と活用方法についての理解と援助
	4. 対象との関わりから倫理的問題にも目を向け、課題解決に向けて検討し、援助に活かすことができる。	1) 倫理カンファレンスの参加（グループディスカッション）
	5. 医療チームの一員としての役割を理解し、行動することができる。	

目 標		実 習 内 容
救急外来見学実習	1. 救急外来における看護の概要がわかる。	1) 救急外来の特徴（救急外来の構造・設備の特徴） 2) 生命の危機状態にある救急処置を必要とする対象・家族の特徴
	2. 救急外来における看護師の役割がわかる。	1) 救急外来における看護師の役割 （救急処置の実施、医療行為の介助、緊急度・重症度の判断、必要な処置とその優先度の決定、倫理的配慮） 2) 救急処置を必要とする対象とその家族への看護（精神的ケア、社会的サポート）
	3. 救命救急に関わるチーム内での看護師の役割と多職種との連携を知る。	1) 救命救急における医療チームの連携（多職種との協働）
	4. 病態が刻々と変化する対象に対する看護実践場面を見学し、臨床判断能力を養う。	
HCU見学実習	1. HCUにおける看護の概要がわかる。	1) HCUの特徴（HCUの構造・設備の特徴） 2) 高度な治療が必要な対象・家族の特徴
	2. HCUにおける看護師の役割がわかる	1) HCUにおける看護師の役割 （急性期治療を受ける対象の看護、全身状態の管理、精神的支援） 2) 高度な治療が必要な対象とその家族への看護
	3. HCUにおけるチーム内での看護師の役割と多職種との連携を知る。	1) HCUにおける医療チームの連携 （多職種との協働）
	4. 高度な治療を受ける対象の看護実践場面を見学し、臨床判断能力を養う。	



## 継続看護Ⅰ実習 2単位（90時間）

### 【目的】

慢性的な経過をたどる対象を理解し、治療を継続しながら生活するための看護を学ぶ

目 標		実 習 内 容
病棟実習	1. 受け持ち対象の看護過程が展開できる。	1) 看護に必要な情報を精選し、対象特性を描く 2) 対象の回復過程を支える必要条件を明らかにする 3) 対象の変化や反応から解決を要する対立がどこに生じているかを考える 4) 看護上の問題を明確にし、対象を尊重した目標を設定する 5) 具体的かつ個別性のある看護計画を立てる 6) 対象の反応をみながら計画を実施し、評価する 7) 評価に基づいて計画の修正をする
	2. 障害受容過程を支える看護が実施できる	1) 加齢に伴う変化のある対象への看護 2) 認知機能・コミュニケーション障害のある対象の看護 3) 複数の疾患や障害を持つ対象の看護 4) 慢性疾患を抱えながら社会復帰を目指す対象の看護を行う
	3. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象への看護が実施できる。	1) 対象の意思を汲みとり、対象の立場に立った援助を行う 2) 対象の全体像を把握し、個別性に合わせた日常生活援助を行う 3) 対象の健康障害と段階を理解し、その変化に応じた援助を行う 4) 退院後の生活を思い描き、必要な看護を考え行う 5) 対象の回復を促進するために関わる多職種を知り、多職種協働の必要性を理解する
	4. 障害への適応と社会復帰に向けた患者への看護が実施できる	1) 日常生活動作を評価し、それに応じた日常生活の自立に向けた援助を行う 2) 他職種と連携を取りながら援助を行う 3) 対象の疾病や障害受容過程に沿って生じる身体的・精神的・社会的影響を考慮して援助を行う 4) 退院後の継続看護の必要性や社会資源の活用方法について理解し援助する 5) 介護や生活調整のサポート役を担う対象を支える人々に対する支援を行う

透析センター	<p>1. 治療を受けながら、仕事や家庭での社会生活を維持する患者の心理を知る</p> <p>2. 社会資源の活用方法について知る</p> <p>3. 腎代替療法に携わる多職種との連携を知る</p> <p>4. 腎代替療法における看護師の役割がわかる</p>	<p>1) 治療を受けながら社会生活を維持する対象が感じている様々な思いに気づき、看護に活かすことができる</p> <p>1) 対象を通して社会資源の種類・内容、活用方法を把握する</p> <p>2) 対象の健康を維持するために関わる職種を知る</p> <p>1) 対象の社会生活を維持するために病棟、外来、透析センター及び家族の間でどのような連携がとられているのかについて理解を深める</p> <p>1) 外来化学療法で行われている看護を見学し、指導に沿って実施する</p> <p>2) 透析センターで看護師が対象とどのような関わり</p>
外来化学療法室	<p>1. 治療を受けながら、仕事や家庭での社会生活を維持する患者の心理を知る</p> <p>2. 社会資源の活用方法について知る</p> <p>3. 外来化学療法に携わる多職種との連携を知る。</p> <p>4. 外来化学療法の目的がわかる</p> <p>5. 外来化学療法における看護師の役割がわかる</p>	<p>1) 治療を受けながら社会生活を維持する対象が感じている様々な思いに 気づき、看護に活かす</p> <p>1) 対象を通して社会資源の種類・内容、活用方法を把握する</p> <p>1) 対象の健康を維持するために関わる職種を知る</p> <p>1) 対象の社会生活を維持するために病棟、外来、外来化学療法室及び家族の間でどのような連携がとられているのかについて理解を深める</p> <p>1) 外来化学療法で行われている看護を見学し、指導に沿って実施する</p> <p>2) 外来化学療法室で看護師が対象とどのような関わりをしているのかを知り、その意味や目的について考を深める</p>

## 継続看護Ⅱ実習 2単位(90時間)

【目的】健康障害を持つ対象が、その人らしい生活を再獲得するための看護を学ぶ

目 標		実 習 内 容
江南 厚生 病院  病棟 実習	1. 受け持ち患者の看護過程が展開できる。	1) 看護に必要な情報を精選し、対象特性を描く。 2) 受け持ち患者の回復過程を支える必要条件を明らかにする。 3) 急激な変化による受け持ち患者の反応を理解する。 4) 看護上の問題を明確にし、受け持ち患者を尊重した目標を設定する。 5) 具体的かつ個別性のある看護計画を立てる。 6) 受け持ち患者の反応をみながら計画を実施し評価する。 7) 評価に基づいて計画を修正する。
	2. 治療を受ける受け持ち患者の看護ができる。	1) 加齢に伴う変化のある高齢者の看護 2) 認知機能・コミュニケーション障害のある受け持ち患者の看護 3) 複数の疾患や障害を持つ高齢者の看護
	3. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ受け持ち患者への看護が実施できる。	1) 受け持ち患者の意思を汲みとり、受け持ち患者の立場に立った援助を行う。 2) 受け持ち患者の全体像を把握し、個別性に合わせた日常生活援助を行う。 3) 受け持ち患者の健康障害と段階を理解し、その変化に応じた援助を行う。 4) 退院後の生活を思い描き、必要な看護を考え行う。 5) 受け持ち患者の回復を促進するために関わる多職種を知り、多職種協働の必要性を理解する。

5 渥 階美 西病 院  地域 包括 ケア 病棟	1. 受け持ち患者が地域に戻り生活するための支援がわかる	1) 受け持ち患者が地域で生活するためにどのような支援が行われているのかを知る 2) 受け持ち患者に関わる職種、人々を知り、多職種協働における看護師の役割について理解する。 3) 受け持ち患者と受け持ち患者を支える人への支援について理解を深める。
	2. 地域包括ケア病棟における継続看護の必要性について述べることができる	1) 受け持ち患者に必要な社会資源の種類・内容を知る 2) 地域の特性と、実施されている看護、支援との関連について理解を深める
	3. 受け持ち患者に合わせたコミュニケーションを図ることができる	1) 様々な状態にある受け持ち患者とコミュニケーションを図る 2) 看護者としての願いを持ってコミュニケーションを図る

<p>5 渥美病院 療養病棟</p>	<p>1. 療養病棟で生活する受け持ち患者を理解する</p> <p>2. 療養病棟における継続看護について述べることができる</p> <p>3. 受け持ち患者に合わせたコミュニケーションを図ることができる。</p>	<p>1) 受け持ち患者の全体像を知り、個別の安楽を追求する。</p> <p>2) 受け持ち患者が療養病棟で生活している背景を知る。</p> <p>3) 自宅や療養病棟での生活を比較し、生活する場の意味を考える。</p> <p>1) 療養病棟における継続看護の意味を考える。</p> <p>2) 受け持ち患者の個別性に応じた看護の必要性を考える。</p> <p>1) 様々な状態にある受け持ち患者とコミュニケーションを図る</p> <p>2) 看護者としての思いや願いを持ってコミュニケーションを図る</p>
------------------------	---	--

## 小児看護学実習 2単位 (90時間)

### 【目的】

子どもの成長・発達をふまえ、様々な健康レベルにある小児期の対象を理解し、擁護する家族を含めた小児看護の実践に必要な基礎的能力を学ぶ。

目 標	学習活動
1. 様々な健康レベルにある子どもに関心を持ち、理解を深める。  2. 子どもの成長・発達をふまえ、擁護する家族を含めた看護を実践できる。  3. 小児外来、NICU/GCUの見学実習を通して看護の実際を知り、看護の役割を考えることができる。  4. 「重症心身障害児」や「医療的ケア児」といった重度の障がいがある子どもたちの成長発達を促す支援内容を知る	1) 対象の看護目標を達成するために、実践した看護を振り返り、自ら自己の課題に向けて学習を深めていくことができる。  2) 看護師に必要な社会人基礎力を身に付ける。  3,4) 患者の反応(状態)を意識しながら、その時々状況に応じて支援・援助を変更しつつ、より良い看護を実践する。  5) 必要な情報を収集しながら対象理解を深める。  6) 対象の個別性に着眼し、持てる力を判断しながら看護の方法を考える。  7) 実施した看護行為を、根拠を基に客観的に振り返る。  8) 事前学習をもとに、関心を持って見学しながら、気付いた疑問に対し学習を深める。  9) 子どもを取り巻く環境、家族看護をふまえた看護を考える。  10) 1日担当クラス(3歳未満児と4・5歳児クラスに1日ずつ)に入り、保育園の日課に沿って登園から降園まで保育活動に参加する。  11) 何らかの障害を抱えながら生活する児への療育活動、医療的ケアに参加する

臨地実習

## 母性看護学実習 2単位 (90時間)

### 【目的】

マタニティサイクルにある母子とその家族を統合的に理解し、母子の健康の保持・増進と日常生活におけるセルフケア能力を高める看護の実施ができる。

目 標	実 習 内 容
1. 妊娠による身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。	1) 妊婦健康診査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・腹囲測定、子宮底測定、体重測定、血圧、尿検査</li> <li>・レオポルド触診法、NST、胎児の発育状況</li> <li>・社会資源の活用、母子健康手帳の活用</li> </ul>
2. 妊娠週数に応じた母体と胎児の変化及び、援助について理解できる。	2) 助産師外来 <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦への保健指導、乳房の手入れ、生活指導</li> <li>・家族間の役割調整</li> </ul>
3. 親になる準備教育について述べることができる。	3) 母親教室、育児準備、バースプラン
4. 分娩による身体的・心理的・社会的特徴について述べることができる。	4) 身体的・心理的・社会的特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩の3要素、分娩進行に伴う母児への影響</li> </ul>
5. 産婦に必要な看護を実施することができる。	5) 産婦への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦の観察</li> <li>・分娩Ⅰ期からⅣ期への援助</li> <li>・基本的ニーズの充足</li> <li>・早期母児接触</li> <li>・家族への支援、役割調整</li> </ul>
6. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴について述べることができる。	6) 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴
7. 褥婦に必要な援助が指導者と共に実施ができる。	7) 褥婦への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・退行性変化、進行性変化促進の援助</li> <li>・褥婦やその家族の役割獲得のための援助</li> <li>・継続看護</li> <li>・地域との連携</li> <li>・授乳、育児の援助</li> <li>・褥婦やその家族の役割獲得のための援助</li> <li>・母子の愛着形成促進の援助</li> </ul>
8. 胎外生活適応の為の新生児の生理を理解し、観察と援助ができる。	8) 新生児への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の観察</li> <li>・新生児の食に関する判断（生理的体重減少）</li> <li>・新生児黄疸</li> <li>・感染予防（手洗い、環境整備）</li> <li>・事故防止（転倒転落、取り違い防止）</li> </ul>
9. 生命の尊厳について考えることができる。	9) ・分娩見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期母児接触</li> <li>・グリーンケア</li> </ul>
10. 母性看護における継続看護を通して、取り巻く環境・支援体制を理解できる。	10) 性機能障害にある患者の症状・検査・治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診、検査等</li> <li>・保健指導</li> </ul>

## 精神看護学実習 2単位 (90時間)

### 【目的】

精神科における治療および看護の実践を通して、精神障がいをもつ対象者を理解し、回復・自律に向けた精神看護に必要な看護実践能力を養う。

目 標		実 習 内 容
病棟	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障がいをもつ対象者を理解できる</li> <li>2. 精神障がい対象者の生活に及ぼす影響を知り、セルフケア能力に応じた日常生活の援助を実施できる</li> <li>3. 対象者が受けている治療と看護について理解できる</li> <li>4. 精神看護における患者-看護師関係の構築及び患者の状態に合わせたコミュニケーションができる</li> <li>5. 社会資源の活用方法・他職種との連携について学ぶことができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病に至った経緯について、発症の時期や症状、治療経過、生育歴や生活歴、家族背景、社会性、生活環境など幅広い情報から精神に及ぼす影響について考える</li> <li>2) 受け持ち対象者の生活行動・精神状態をアセスメントし、必要な支援及び援助を多面的に考え実施する</li> <li>3) 受け持ち対象者が受けている治療の目的や内容を知り、治療による身体的・精神的影響を考え、看護に活かすことができる</li> <li>4) 受け持ち対象者に関心を注ぎ、対象者の言動・表情・行動から、その意味を考え、意図的にコミュニケーションを図り患者と関わりを持つことができる</li> <li>5) 受け持ち対象者との関わりを通して、自己の感情の変化に気づき、関わりを振り返ることで、次に活かすことができる</li> <li>6) 受け持ち対象者が、活用できる社会資源を考えることができる</li> </ol>
外来・福祉施設	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権擁護の重要性を理解し、尊重した態度がとれる</li> <li>2. 一般外来と精神科外来の違いを考えることができる</li> <li>3. 施設の役割を理解し述べることができる</li> <li>4. 複数の利用者と関わる中で、必要な支援について考えることができる</li> <li>5. 就労継続支援B型事業所の役割や特徴について述べるができる</li> <li>6. 精神保健福祉士の役割について理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生が関わることも、環境要因の一つとなることを理解して行動できる</li> <li>2) 外来待合室での見学を通して、外来の雰囲気やスタッフの対応、待ち時間の患者の様子などを観察し、一般内科との違いを考えることができる</li> <li>3) 施設の特徴・役割を学ぶ  (多職種連携・社会資源の活用・支援の実際・社会とのつながり・スティグマ)</li> <li>4) 施設を利用する対象者と関わり、対象者の思いを聴かせていただく中で、対象者の希望やその人らしさに目を向け、地域で生活するために必要な支援について考える</li> <li>5) 就労継続支援を利用している対象者と関わる中で、働くことの意味や対象者への影響について考えることができる</li> <li>6) 精神保健福祉士の役割や実際の支援について説明を受け、多職種連携や対象者が自律した生活を送るために、どのような支援が必要かを理解する</li> </ol>

デイケア	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科デイケアの役割について理解し、述べることができる</li> <li>2. 精神科デイケアに通う意味を考えることができる</li> <li>3. 精神科デイケア利用者が、地域で生活するために必要な支援を考え述べるができる</li> <li>4. 精神科デイケアでの多職種連携について理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科デイケアの特徴・役割を学ぶ (社会生活機能の回復・再発予防・多職種連携など)</li> <li>2) 精神科デイケアを利用する対象者と関わる中で、対象者の希望や持てる力に目を向け、地域で生活するために必要な支援について考える</li> <li>3) 精神科デイケアを利用する対象者と、プログラムに参加する中で、デイケアに通う意味を考えることができる</li> <li>4) 対象者の生活を支えるために、必要な社会資源・制度を結びつける</li> </ol>
訪問看護ステーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科訪問看護の役割を述べるができる</li> <li>2. 疾病が日常生活に及ぼす影響を説明できる</li> <li>3. 家族への援助について考え、述べるができる</li> <li>4. 多職種との連携や社会資源の活用について述べるができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問する対象者の情報収集を事前に行う (生活状況・居住環境・家族関係・周囲の環境・社会資源の利用など)</li> <li>2) 訪問看護に同行し、対象者の生活の実態と看護介入の必要性を理解し関わる</li> <li>3) 対象者や、家族が望む生活について知ること、その人らしく生きていくことを考えることができる</li> <li>4) 対象者が必要とする社会資源について考えることができる</li> <li>5) 学生が関わることも、環境要因の一つとなることを理解して行動できる</li> </ol>



## 看護の統合と実践 2単位 (90時間)

### 【目的】

複数患者の看護過程を展開し、臨床実務に即した看護の実践を習得する

目 標	実習内容
1. 病棟における看護組織と職務の役割を述べる事ができる	1) 看護課長、係長の役割についてオリエンテーションを受ける <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理</li> <li>・人事、労務管理</li> <li>・設備、物品、薬品管理</li> <li>・夜勤帯との連携</li> </ul>
2. 看護チームの日替わりリーダーおよびメンバーの役割について述べる事ができる	1) 日替わりリーダーと行動を共にし、以下の内容を体験する <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務計画、業務調整</li> <li>・他チームおよび他部門との連携</li> <li>・チームメンバー間の情報共有</li> <li>・夜勤帯との連携</li> </ul> 2) チームメンバーと行動を共にし、以下の内容を体験する <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告、連絡、相談</li> <li>・チーム内の連携・協力</li> <li>・優先度に応じた看護実践</li> <li>・チームメンバーとしての責任</li> </ul>
3. チームで複数の患者の看護過程を展開できる	1) チームで対象特性を描く
a. チームで個々の患者の看護の必要性を共有できる	2) チームで看護の必要性を明確にする
b. チームで受け持ち患者に必要な看護計画の立案、実施・評価ができる	3) チームで個々の患者の看護の目標を設定する
c. チームの中で自分の役割を理解し行動できる	4) 複数の患者の計画における優先度をチームで決定する
	5) 当日の計画修正が必要になった場合、チーム間で相談し調整する
	6) チームで協力して看護計画に沿って実施する
	7) チームで実施した看護の評価をする
	8) チームで看護計画の修正をする
	9) チームの中で自分の役割を実践する <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー役割</li> <li>・メンバー役割</li> </ul>
	10) 必要な情報を報告・連絡・相談する
4. 看護師としての責任と自覚について考え述べる事ができる	1) 目標1～4について振り返りレポートにまとめる